

# 院長 Interview



## 街と共に 成長を続ける 地元密着型医院

医療法人真葉会さくらい歯科医院  
千葉県四街道市

### 櫻井真人氏

Sakurai Masato

1963年10月2日生まれ。明海大学歯学部卒業。1994年開業。千葉県歯科医師会理事、印旛都市歯科医師会四街道地区会副代表

スタッフ：歯科医師4人(うち非常勤2人)、歯科衛生士2人(うち非常勤1人)、歯科助手・受付10人(うち非常勤6人)

ユニット：6台  
駐車場：16台分

街が造成される前の区画に開業し、街と共に成長してきた「さくらい歯科医院」。幅広い世代の住民が来院するだけでなく、地域の障害者施設や特別養護老人ホームなどへも訪問診療に赴く、地元密着型の診療を行っている。開業から27年間にわたる変遷や、増改築の際の工夫などについて伺った。

## 造成前の区域で開業

—いつごろ開業したのですか。

**櫻井** ここに開業したのは1994年の8月です。それまでは分院長を務めており、院長の練習をしながら開業地を探していました。

まだ造成中だったのですが、街の完成を見込んでこの場所に決めました。開業当時は1軒も家がない状態からスタートしました。

—患者さんが来るか不安はありませんでしたか。

**櫻井** 隣接する地区には住宅がありましたし、周りに何も無い分、電気をつけていると目立ったので、「何が出来たのだろう」と注目されやすかったと思います。

ただ、周りに建つ建物がどのような形で構築されていくか定かではなかったので、住宅街が完成した時に埋もれてしまわないよう、外観には配慮しました。

—どのような点に気を付けたのですか。

**櫻井** 住宅街の一軒家という、濃い色の角張った屋根に、薄い色の壁の家が多いイメー



診療室。

ジだったので、屋根は丸く、壁の色は濃くしました。

実際に隣に建ったのは、郵便局と内科の診療所だったので、住宅との差別化という面ではあまり関係ありませんでしたが、個性がある外観にしたことで、地域から認識されるという意味では役立っていると感じています。

また、隣に建物が建った時に圧迫感を覚えないよう、隣の敷地からある程度のスペースを取りました。

## 全世代がバランス良く来院

—どのようなコンセプトで診療に臨んでいるのでしょうか。

**櫻井** ここはベッドタウンなので、特別なことをするより、住民や少し先の農業地域の人も来やすいような、確実に診療をこなす地元密着型の医院を目指していこうと思っています

した。

治療方針としては、

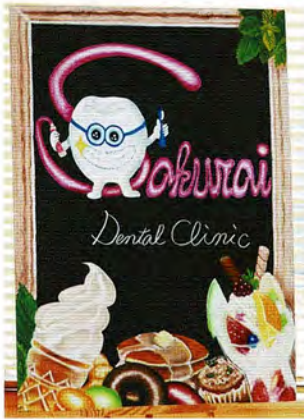
- ①可能なかぎり痛くない治療
- ②患者さんの歯をできるだけ生かす治療
- ③納得いただける分かりやすい説明
- ④一人一人に合った治療の提案を掲げています。



外観。車椅子用の長いスロープがある。



待合室には、元スタッフが描いてくれるチョコレートアートを飾っている。毎月変えるぬいぐるみも人気。



つい先日、待合室で具合が悪くなってしまった患者さんがいたのですが、毎回いつも通りに同じ診療ができるわけではないとあらためて実感しました。その日の患者さんの体調やニーズを汲んで、臨機応変に診療していくことが、難しくも大切なことだと思っています。

——住宅街ということですが、患者層に何か傾向などはありますか。

**櫻井** バランス良く幅広い世代の人たちに来院していただいています。

開業時はすでにバブルは崩壊していて、住宅が売れるスピードが半期に10～20戸と

ゆっくりで、街もゆっくりと成熟していきました。そのため、昔のベッドタウン開発のように一気に同世代の人が住み着いて一気に高齢化するような状態にならず、幅広い世代の人が住んでいると思います。

開業から27年がたちますが、いまだに売り出し中の家がある状態なので、「景気が悪いのも、一概に悪いとはいえない」と感じています。

——27年の間に、医院のリニューアルなどは行ったのでしょうか。

**櫻井** 開業当初、ユニットは3台でしたが、街の開発が進んで3年ほどたったところに手狭

になったので、増築して6台分の配管スペースを作り、患者数に応じて1台ずつユニットを増やしていきました。待合室も10年目に増築して、倍の広さにしました。

—増築は特に問題なく済んだのですか。

**櫻井** もともと増築を想定して開業したので、特に不都合なことはありませんでした。診療しながら隣で工事をしていたので、音がうるさいことはありましたが……。

待合室を広くした時に、駐車スペースは狭くなったのですが、隣接する内科の隣に駐車スペースを拡張して、16台分を確保しています。スタッフも車で通勤しますし、この地域では駐車場は必須だと思っています。

—順調に患者数が増えてきたとのことですが、何か広告はしているのでしょうか。

**櫻井** 開業してから今まで、特に目立った広告はしていません。大学祭や高校のオーケストラの冊子に協力の意味で出すことはありますが、看板広告などは、私自身が看板を見ないので必要性は感じていません。

ホームページはあるので、関心があれば見ていただけたらいいかなと思います。感覚的には、ホームページも場所の確認などのために見るだけで、口コミで来院する人が多い気がします。

ただ、患者さんの中には毎月ホームページを見てくれている人もいるようなので、小まめに更新することは心掛けています。

院内では、チョークアートの教室を開いている元スタッフが毎月、作品を届けてくれたり、飾る花やぬいぐるみを変えたりしているので、その更新情報をアップしています。どれくらいの方が喜んでいては分かりませんが、花とチョークアートは1年半くらいまで過

去のギャラリーも楽しめるようにしています。

## 介護認定審査員として

—入り口の緩やかなスロープや、靴を履く時に座れる台が出し入れできるなど、高齢の方への配慮が随所に見られますね。

**櫻井** 最初は簡易的な取り外しタイプのスロープだったのですが、街が成熟してくれば高齢者も増えてきますし、世界的にユニバーサルデザインが常識とされつつある中、障害を持つ方たちの治療も大切だと考えていたので、増築の時に見直しました。近くに車椅子メーカーの会社があるので、車椅子の方が自走できる斜度を教えてもらい、それに準じてスロープを作りました。

—障害を持つ方の来院は多いのですか。

**櫻井** 水曜の午前11時から身体障害者の施設から、14時から知的障害者の施設から来院する人を診る時間を設けています。

また、金曜の午後は訪問診療の時間にして、両障害者施設と2つの特別養護老人ホーム、有料老人ホームのいずれかに行くようにしています。

—居宅の訪問診療も行っているのですか。

**櫻井** 今まで来院していた患者さんが来られなくなったら行きますが、今のところあまりニーズはなく、月に1、2件あるかないかです。

ただ、介護認定審査員をしているので、今後より高齢化が進んでいく中で、ゆっくりながらも在宅を含めた訪問診療に重きを置いていく必要性は感じています。一方で、外来の患者さんをおろそかにしないような時間配分なども考えていかななくてはならないと思っています。

—介護認定審査員とは、どのようなことを

するのですか。

**櫻井** 介護認定調査員が調べて送ってくる資料を基に、要介護5から要支援1までのどれに当たるのか審査するのが仕事です。自治体によっても違うと思いますが、医療と介護、福祉の分野からの参画が必要で、四街道市では、医師、歯科医師、薬剤師、介護士、保健師の5人チームが6組あります。火曜と金曜にローテーションで審査に当たるので、3週間に一度、35件を1時間くらいかけて5人で審査します。

——審査員になったきっかけは。

**櫻井** 地区の歯科医師会経由で引き受けることになり、7年目になります。新任の時に県の講習会を受ける必要がありますが、特別な資格が必要というわけではありません。

ただ、審査員になって勉強にはなりました。介護の現場は実際に携わらないと、介護1と要支援2の境界が不明瞭で割り振りが難しいなど、要介護度の認定の流れも見えにくい部分が多いと思います。要介護3以上を対象とした特別養護老人ホームと、有料老人ホーム

にいる患者さんの背景の違いなども、診療する際に参考になっています。

また、自分の親の介護も経験しているので、施設の人たちの仕事の大変さは理解しているつもりです。

## 会務や勉強にも邁進

——先生は千葉県歯科医師会の理事を担当していますが、歯科医師会の仕事と診療をどのように両立しているのですか。

**櫻井** 歯科医師会の役員は時間が限られているものなので、その間は一生懸命やらなくてはいけないと思っていますし、それを次世代の会員が順次引き継いでいってほしいです。会に助けられたことはたくさんあるので、恩返しも必要だと考えています。

会の行事も前もって決まっていますし、診療は完全予約制なので、調整に苦慮したことはあまりありません。

——学会やスタディーグループなどには所属していますか。

**櫻井** 日本口腔インプラント学会と歯科基礎医学会、日本歯科先端技術研究所、大学の先輩が主宰するGO会などに所属しています。勉強会自体はもちろん、来ている人同士で情報交換することも大切だと感じています。

——開業医の先生で、歯科基礎医学会に所属しているのは珍しいような気がします。

**櫻井** 生化学の研究生として学位を取った関係もあって、いまだに所属しています。プテリジンというたんぱく質に着目して、ヨーロッパのキットを使って歯肉溝滲出液から歯周病の進行具合を調べる研究をしていました。

——診療報酬改定で歯周病重症化予防治療が新設されたことを思うと、臨床でも使えそう



知り合いに作ってもらった、ガチャガチャのケース。

な研究ですね。

**櫻井** 着眼点は面白いと思いますが、検査結果が出るまでに50分かかるので、臨床に使うのは難しいかもしれませんね。

今は忙しくて手がつけられないのですが、いつか研究の続きをしたいと思います。

——学術大会なども行くのですか。

**櫻井** 時間が許す限り学術大会にも参加します。基礎系の研究は夢があります。日々の診療とか離れてる点もありますが、歯科界に夢を持てるスケールの大きい研究などは良い刺激になります。

## 新型コロナの影響

——新型コロナウイルス感染症の影響は。

**櫻井** 外来では、毎月の口腔ケアのチェックだけの人は先送りにして、治療が必要な人を選別して診ていたこともあり、4月中旬から5月中旬にかけて患者数は通常の65～70%くらいに落ち込みました。

訪問診療は、3月、4月には来てもらっては困るという施設も少しありましたが、一時的なもので、その後は来てほしいと言われるようになりました。

放っておいて悪化しても困るので、6月からは従来通りのスタイルに戻し、患者さんも戻りつつあります。

スタッフが怖いと感じているなら、そのような職場環境をつくるのは良くないと判断し、「心配な人は一時的に休んでもよい」と伝えました。子どもの小学校が休校になったスタッフ1人が休みましたが、学校が始まったらまた働いてくれています。

衛生用品については備蓄があったので、特に不便は感じませんでした。



上／受付にはビニールカーテンを下げた。  
下／口腔外バキューム。



——診療で工夫している点などはありますか。

**櫻井** タービンなどを使用してエアロゾルが発生する診療では、フェイスシールドを装着します。

待合室では、受付にビニールを下げたりしています。どのくらいの効果があるかわからないのですが、何かあってからでは遅いので、「やるだけのことはやろう」と決めています。